商業科（財務会計Ⅰ）学習指導案

広島県立竹原高等学校
教　諭　　松本　啓司

1　実　施　日：令和元年９月３日(火)第５校時（13：30～14：20）

2　学年・学級：第２学年・商業科（男子５名　女子６名　計 11 名）【基礎クラス】

3　単　元　名：資産　「減価償却」

4　単元について

（１）単元観

本単元は，「高等学校学習指導要領　第３章　第３節　商業　第 12　財務会計Ⅰ　２　内 容 (2) 貸借対照表　ア　資産」に位置付く。この単元は，「３　内容の取扱い　(2)　イ」において，「資産の意味と分類，評価基準及び資産の処理方法を扱うこと。」と示されている。

有形固定資産は，使用や時の経過等によって価値が減少する資産である。決算においては，この価値の減少額を見積もり，それを当期の費用として計上するとともに，固定資産の帳簿原価を減らすことで適切な費用配分を行うための減価償却の手続きが必要である。

本単元では，この減価償却の目的を理解させ，減価発生の原因を考えさせることで，減価償却の意義を正しく理解させるとともに，その処理を適切に行うことができるようになることをねらいとする。

（２）生徒観

明瞭活発な生徒が多い。第１学期期末考査の結果を経て新たに発展クラスから基礎クラスに生徒が３人増え，11 人体制となった。この 11 人の生徒の第１学期中間考査の平均点は 71.6 点であり，標準偏差は 27.6 点である。また，第１学期期末考査の平均点は 45.0 点であり，標準偏差は 12.9 点である。このことから，興味関心が高く意欲的に取り組んでいる生徒がいる一方で，学習内容の難易度が高まるにつれて，学習意欲が低下した生徒がいることが考えられる。

（３）指導観

これまで学んだ定額法及び定率法の学習内容が，企業会計における費用配分の原則を適用し，正しい期間損益計算に繋がることを理解させ，知識の定着を図ることで，今後の学習意欲の向上を図る。また，単に，減価償却費の求め方を数式として覚えるのではなく，計算式が何を意味しているのかを一つずつ理解させ，知識の定着に繋げる。そして，ペアワークやグループワークを始めとするアクティブ・ラーニングによる学び合いを効果的に取り入れ，自ら思考する場面や学び合う場面を設定することで，減価償却についての理解を深めさせたい。

5　単元の目標

・減価償却の目的と減価発生の原因を理解する。
・生産高比例法によって，減価償却を求めることができる。
・企業会計における減価償却の位置付けを説明できる。

6　単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
減価償却に関心をもち，課題に取り組んでいる。	企業会計における減価償却の目的と減価発生の原因について説明することができる。	生産高比例法を用いて，減価償却費を求めることができる。	企業会計における減価償却の意義や役割を理解している。

7　指導と評価の計画（全３時間）（本時は２時間目）

次	学習内容 （時数）	評価					
		関	考	技	知	評価規準	評価方法
一	減価償却方法の振り返り・減価償却の意味 （１時間）	○			◎	・減価償却に関心をもち，課題に取り組んでいる。（関心・意欲・態度） ・企業会計における減価償却の意義や役割を正しく理解している。（知識・理解）	行動観察 ﾜｰｸｼｰﾄ
二	減価の発生原因・生産高比例法による会計処理 （１時間）	○		◎		・減価償却に関心をもち，課題に取り組んでいる。（関心・意欲・態度） ・生産高比例法を用いて，減価償却費を求めることができる。（技能）	行動観察 ﾜｰｸｼｰﾄ 確認ﾃｽﾄ 発表
三	減価償却方法の応用（１時間）		◎			・企業会計における減価償却の目的と減価発生の原因について説明することができる。（思考・判断・表現）	行動観察 ﾜｰｸｼｰﾄ 発表

8　本時の展開

（１）本時の目標

興味関心をもって，生産高比例法による減価償却費を求めることができる。

（２）本時の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
減価償却に関心をもち，課題に取り組んでいる。		生産高比例法を用いて，減価償却費を求めることができる。	

（３）本時の評価基準

	関心・意欲・態度	技能
A （十分に満足）	減価償却に関心をもち，ペアワークやグループワークでの意見交換を通して，課題を解決しようとしている。	生産高比例法を用いて，減価償却費を求めることができ，計算式の内容も十分に理解できている。
B （おおむね満足）	減価償却に関心をもち，課題に取り組んでいる。	生産高比例法を用いて，減価償却費を求めることができる。
C （努力を要する）	減価償却に関心をもてず，課題に取り組むことが困難である。	生産高比例法を用いて，減価償却費を求めることが困難である。

（４）「Ｂ：おおむね満足できる」状況に至らなかった生徒に対する指導の手立て

個別指導を行う。生産高比例法の意味を理解させ，処理方法を順を追って理解させる。

（5）学習の展開

	学習活動	◇指導上の留意事項 （◆「努力を要する」と判断した生徒への手立て）	評価規準 （評価方法）
導入 5 分	1　前時の振り返りをする。 2　本時の目標を確認する。	◇定額法と定率法の処理方法を再確認することで，既習事項の定着を図るとともに，本時の学習につなげる。 ◇目標を示すことで，本時の到達目標を明確にする。	
	本時の目標：興味関心をもって，生産高比例法による減価償却費を求めることができる。		
展開 Ⅰ 20 分	3　減価の発生原因を確認する。	◇パワーポイントを用いて，どのような減価の発生原因があるのかを視覚的に認識する。また，具体例を提示することで，理解を深めていく。	
	4　生産高比例法について考える。 ①個人活動 →自ら問題を解く。 ②ペア活動学び合い →教えあいながら問題演習を行う。	◇減価償却の基になっている法定耐用年数の考え方について説明する。 ◇パワーポイントを用いることで，生産高比例法のイメージを持たせ，本時の目標達成に近づける。 ◇生産高比例法の考え方が定額法，定率法と異なることに留意する。 ◇残存価額 10%がある問題は×0.9 をすると便利なことをその意味を含めて伝える。 ◆理解が難しい生徒は，ペア学習で補う。 ◆共に理解できていないペアは，直接的に指導する。	
展開 Ⅱ 15 分	5　３つの方法を用いて減価償却費を計算する。 ・グループ活動学び合い ①自ら問題を解く ↓ ②解答を共有する ↓ ③発表する or 展開Ⅲ	◇定額法・定率法・生産高比例法のどの減価償却の方法で処理するのか考えさせる。 ◆理解が難しい生徒には，グループで学習を補う。 ◆議論が活発でないグループには，ワークシートの定額法，定率法，生産高比例法の計算方法を再確認するように促す。 ◇本時の学習の定着度合いを行動観察，ワークシートで確認し，学び合いの③と展開Ⅲのどちらを展開する方が効果的であるかを判断し，実施する。	減価償却に関心をもち，課題に取り組んでいる。 【関心・意欲・態度】 （行動観察・ワークシート・発表）
展開 Ⅲ 5 分	6　確認テストを行う。 ・テストの時間は３分 ・確認の時間は２分 ・残り時間が少ない場合は確認テストは次回の授業の最初に行う。（本時では，展開Ⅲを行わない。）	◇初めは，何も見ずに問題を解くように指示する。 ◆ペンが止まっている生徒に対しては，ワークシートの定額法，定率法，生産高比例法の計算方法を再確認するように促す。 ◇すぐに答え合わせを行い，学習の定着度合いを確認する。	生産高比例法を用いて，減価償却費を求めることができる。【技能】 （確認テスト）
終結 5 分	7　本時を振り返り，分かったことや疑問点をワークシートに記入する。 8　次時の学習内容を予告する。	◇振り返りを行い，本時の学習内容の定着を図る。 ◇授業後にワークシートの分析を行い，次時以降の授業に役立てる。 ◇次時は企業経営における減価償却について学習することを確認し，興味をもたせる。	

9　資料及び教材

使用教科書：高校財務会計Ⅰ　新訂版（実教出版）

使 用 教 材：自主作成プリント（ワークシート）　自主作成プレゼンテーション資料